

C132	仏教美術研究（インド・中国）		
英名科目名			
大学名	佛教大学		
連絡先	学生支援課 TEL 075-491-2141（代）		
担当教員	大西 磨希子（仏教学科 教授）		
開講期間	2021年09月20日(月)～2022年02月10日(木) 3講時 12時50分-14時20分（毎週木曜日） 最終週は定期試験週 なお、以下の日程は授業日ではありませんので注意してください。 2021年9月23日（木・祝） 秋分の日 2021年11月1日（月）～11月3日（水） 学園祭開催の為 2021年11月23日（火）～11月25日（木） 公募制推薦入試の為 2021年12月24日（金）～2022年1月7日（金） 年末年始休暇の為 2022年1月10日（月・祝） 成人の日 2022年1月14日（金） 大学入学共通テスト準備の為 2022年2月1日（火）～2月3日（木） 一般入試A日程の為		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	木曜日 3講時
単位数	2	履修年次	2年次以上
会場	紫野キャンパス		
授業定員			
単位互換生定員	10	京カレッジ生定員	
試験・評価方法	成績評価の基準 ・定期試験（教室）50% ・授業内試験 20% ・授業内課題 30%		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料			
別途負担費用			
その他特記事項			
パッケージ科目			
低回数受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<p>授業のテーマ 中国南北朝時代の仏教美術 授業の概要 中国の南北朝時代は、複数の国が分立興隆し覇を競い合った動乱の時代であったが、一方で仏教が厚く信奉され、多彩な仏教美術が開花した時代でもあった。本講義では、雲岡石窟や龍門石窟をはじめとする、華北に現存する石窟寺院や出土像を取り上げ、地域性や時代的な流れに注意しつつ、外来宗教である仏教が、いかにして中国に受け入れられ、造形化されたのかをみてゆく。また受講生の希望があれば、授業期間中に学外授業を行い、中国南北朝時代の影響を色濃く受けた日本の飛鳥・白鳳美術について実地に学習する機会を設ける。</p> <p>授業の目的・ねらい 一言で中国仏教美術といっても、その具体相は実に変化に富んでいる。現存する南北朝時代の仏教遺跡や出土像についてみていくことにより、その多様性を理解し、日本の仏教美術の源流でもある中国南北朝時代の仏教美術についての基礎知識を得ることを目的とする。</p> <p>到達目標 南北朝時代の歴史的な流れをふまえながら、各地域、各時代の仏教美術の特徴について説明できるようになることを目標とする。 授業時間外の学修（予習・復習等）についての具体的な指示 授業で取り上げる仏教遺跡について、場所と代表的な作例を予習して</p>			

<p>おくこと。 授業終了後は、テキストの関連箇所を読み、授業内容を復習すること。</p>	
講義スケジュール	
<p>毎回の授業のテーマ・内容 第1回 中国南北朝時代の歴史地理 第2回 雲岡石窟：北魏仏教と曇曜五窟の開鑿 第3回 雲岡石窟：北魏の服制改革と仏像様式 第4回 龍門石窟：北魏後期の仏教美術 第5回 天人誕生像にみる雲岡石窟と龍門石窟 第6回 鞏県石窟：北魏後期の美術 第7回 炳靈寺石窟：地理と概要 第8回 炳靈寺石窟：第169窟の美術 第9回 麦積山石窟：地理と概要 第10回 麦積山石窟：北魏～西魏時代の仏教美術 第11回 雲岡石窟～麦積山石窟までのまとめ 第12回 響堂山石窟：北齊の仏教美術 第13回 青州龍興寺出土像：東魏・北齊の仏教美術 第14回 日本との関係：飛鳥・白鳳の仏教美術にみる中国南北朝時代の影響 第15回 まとめ</p>	
教科書	指定なし。授業時にプリント資料を配布する。
参考書	<p>書名：中国石窟 雲岡石窟 1～2 著者：雲岡石窟文物保管所 出版社：平凡社・文物出版社 書名：中国石窟 龍門石窟 1～2 著者：龍門文物保管所、北京大学考古系 出版社：平凡社・文物出版社 書名：中国石窟 鞏県石窟寺 著者：河南省文物研究所 出版社：平凡社・文物出版社 書名：中国石窟 永靖炳靈寺石窟 著者：甘肅省文物工作隊・炳靈寺文物保管所 出版社：平凡社・文物出版社 書名：中国石窟 天水麦積山石窟 著者：天水麦積山石窟芸術研究所 出版社：雲岡石窟文物保管所</p> <p>川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社、1974年。2003年に講談社学術文庫より再刊）は、授業期間内に一読しておくこと。</p>